

終刊にあたって

本誌は今号をもって終刊となります。

読者の皆様、執筆、編集、製作、広告、その他、これまでお世話になったかたがたに厚く御礼を申し上げます。

1971(昭和46)年3月の創刊以来52年半、この分野の唯一の専門誌として今回までパンクチュアルに606号を発行することができました。

創刊号はわずか20ページの片々たる小冊子という体裁でした。隔月刊でスタートし、1975年1月号から月刊となり今日まで続きました。2021年4月号から紙媒体としての刊行は終了し、PDF版での発行となったことは記憶に新しいことと思います。

この半世紀余りの間に、海外子女を取り巻く環境は大きくさま変わりしました。国際情勢の推移や景気の変動に左右されながらも、海外子女数や在外教育施設数など量的な面はもちろん質的にも変化を重ねています。その折々に、トレンドとなった事象を意識しながらニュースや特集、論説といった形で、十全とはいえなかったかも知れませんが、多様な記事を提供させていただきました。

当事者の皆様をはじめ、この問題に関心を持つかたがたのお役に立ちたいと、在外教育施設や国内受入校の紹介、教育相談、読者投稿、マンガ、座談会、研究発表、人物紹介、コラム、書評等々、さまざまな種類の記事を締め切りに追われながら取り上げてきたことは、いまとなつては楽しい思い出です。こうした記事が、お読みいただいた各位にいささかでも裨益するところがあったなら望外の幸せです。(なお、本誌の歩みを知るには、長年編集に携わってこられた古家淳氏による特集記事「『海外子女教育』誌の50年」(2021年12月号)が役に立ちます。)

ここに惜別の辞を記すことは心情において辛いのですが、うれしいことに読者のかたから終刊を惜しむコメントや激励のメッセージを頂戴し、前に進むエネルギーを蓄えることができました。

なお、本誌の精神はウェブ版の“JOESマガジン”に引き継がれます。形態は大きく変わるものの、今後も大切なメッセージはしっかりとお伝えできる態勢を整えているところです。9月にリリース予定ですので引き続きご愛顧いただきたくお願い申し上げます。

創刊号の表紙裏に載った「謹告」の傍らに、燭台の上に灯るロウソクの挿し絵が置かれています。想像をたくましくすれば、異国で暮らす人々の希望のともしびとなるようにとの願いが、第一号のこのカットに込められていたのかもしれませんが。その思いが少しでも叶えられたならば、関係者一同これに勝る喜びはありません。

長い間ご愛読くださり、ありがとうございました。

編集人 島田誠一